

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 川北町 （都道府県：石川県）

1. 当該地域の情報（令和 6年 1月現在）

地域の課題	定住する外国人は一定の割合存在しているものの、日本語学習ニーズなど現状把握ができていない状況である。また、地域では外国人住民の存在が住民に認知されていない。さらに、町全体として国際交流・多文化共生に対する取組がこれまでほぼ行われてこなかったことから、日本語教室の必要性についての認識・理解が深まっていない。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】63人 【外国人比率】1.03%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】ベトナム47人 ネパール4人 インドネシア3人 中国2人 フィリピン2人 ミャンマー2人 米国1人 カナダ1人 ブラジル1人 【在留資格】技能実習34人 特定技能1号14人 永住者5人 家族滞在4人 技術・人文知識・国際業務2人 介護2人 教育1人 定住者1人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が多く、中長期滞在者のうち比較的滞在期間が短い人が多い傾向が見られる。
在住外国人の 日本語教育の現状	令和5年度より日本語教室「なでしこ日本語ひろば」を月に1回の頻度で開催している。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	日本人住民と外国人住民の間でのトラブルが起きないように、第一に相互理解を深め信頼関係を築くことが大事であると考え、外国人住民を対象とする日本語教室を立ち上げ、外国人の日本語学習を支援するとともに、外国人住民と日本人住民との交流の機会を通して、お互いの文化や習慣・マナーを理解しあい、信頼関係を熟成し、住み良い多文化共生社会づくりに取り組んでいきたいと考えている。			
事業の概要	アドバイザー会議3回、コーディネーター会議8回、日本語教室・反省会7回、石川県地域日本語教室大会参加、コーディネーター情報交換会参加、日本語教室理解のための講演1回、教室運営者を対象とした「やさしい日本語講座」1回を実施できた。			
事業の対象期間	令和5年6月～令和6年3月			
前年度の実績 （2年目以降の団体のみ記載）	令和4年7月に年間計画を作成（アドバイザー会議実施）、9月にニーズ調査を実施、12月に日本語教室を開催した。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	高本 博美	川北町国際交流の会「虹のかけはし」	会員	事業全体のコーディネート、資料作成
	吉田 晃子	川北町国際交流の会「虹のかけはし」	会員	事業全体のコーディネート、資料作成

	氏名	所属	職名	継続・新規の別
担当アドバイザー	関口 明子	—	シニア・アドバイザー	継続・新規（ 3 年目）
	石津 みなと	—	日本語教育施策推進アドバイザー	継続・新規（ 3 年目）
	菊池 哲佳	—	日本語教育施策推進アドバイザー	継続・新規（ 2 年目）

3．日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制			
	所属（担当課）	職名	担当者名
	社会教育課	主事	長岡 昂吉
	住民課	係長	喜多 孝行
	川北町商工会	事務局長	小川 仁一

（2）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制			
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
虹のかけはし（川北町国際交流ボランティア団体）	川北町教育委員会 社会教育課	会長	南 由紀

4．具体的な取組内容

（1）年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和 5 年 4 月			

令和5年 5月			
令和5年 6月	・アドバイザー会議にて、事業目的や事業計画を確認	・アドバイザー会議に参加	★役場担当者変更のため、これまでの経緯や事業の説明、事業計画について検討
令和5年 7月	・教室目的や名称、開催までの流れ等検討 ・年間の教室内容検討 ・第1回教室開催準備	・教室目的や名称、開催までの流れ等検討 ・年間の教室内容検討 ・第1回教室開催準備	
令和5年 8月	・第1回教室の反省会（参加者0で開催なし） ・第2回教室の打合せ	・第1回教室開催準備 ・第1回教室の反省 ・第2回教室の打合せ	★第1回教室の反省点・第2回教室の内容を議論
令和5年 9月	・第2回教室開催準備 ・第2回教室開催、反省会 ・第3回教室の打合せ	・第2回教室開催準備 ・第2回教室の開催、反省 ・第3回教室の打合せ	★教室視察、第2回教室の反省点・第3回教室の内容を議論
令和5年 10月	・第3回教室開催準備 ・第3回教室の反省会（参加者0で開催なし） ・第4回、第5回教室の打合せ ・アドバイザー会議にて進捗を確認	・第3回教室開催準備 ・第3回教室の反省 ・第4回、第5回教室の打合せ ・アドバイザー会議に参加	★第3回教室の反省点・第4回教室の内容を議論
令和5年 11月	・第4回教室開催準備 ・第4回教室開催、反省会 ・第5回教室の打合せ	・石川県地域日本語教育大会に参加 ・第4回教室開催準備 ・第4回教室開催、反省会 ・第5回教室の打合せ	★教室視察、第4回教室の反省点を議論
令和5年 12月	・第5回教室開催準備 ・第5回教室開催、反省会 ・第6回教室の打合せ	・コーディネーター情報交換会参加 ・第5回教室開催準備 ・第5回教室開催、反省会 ・第6回教室の打合せ	★講演実施、今後の活動について議論
令和6年 1月	・第6回教室開催準備 ・第6回教室開催、反省会 ・第7回教室の打合せ ・ZOOMによる実地調査 ・アドバイザー会議にて今年度の振り返り、次年度の方針検討	・第6回教室開催準備 ・第6回教室開催、反省会 ・第7回教室の打合せ ・アドバイザー会議に参加	
令和6年 2月	・第7回教室開催準備 ・第7回教室開催、反省会 ・来年度教室内容について打合せ	・第7回教室開催準備 ・第7回教室開催、反省会 ・来年度教室内容について打合せ	
令和6年 3月	・今年度の振り返り	・今年度の振り返り	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	なでしこ日本語ひろば
外国人参加者について	〔国籍〕ベトナム12名、インドネシア3名（延べ人数） 〔属性〕技能実習生が主

参加者数 (内 外国人 数)	受講者 54 名 (外国人 15) 支援者 26 名 (日本語指導者 1 名、サポーター4 名) ※延べ人数です	
開催時間数	総時間 6.5 時間	内訳 1 時間×2 回 1.5 時間×3 回
目標	『実用性のある内容』で『人間関係をつくれる』『町民に認知してもらえる』教室	

実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023 年 9 月 23 日(土) 10:00~11:30	1.5	川北町文化センター	6	新米でおにぎりをつくる体験の中で、日本語の単語やごみの分別を学ぶ	・アイスブレイク ・おにぎりづくり (具材や手順を勉強) ・片付け (ゴミの分別を勉強)	サポーター3 名 スタッフ 5 名
2	2023 年 11 月 26 日 (日) 10:00~11:00	1	川北町文化センター	3	年賀状を作りながら、年賀状や干支について学ぶ	・アイスブレイク ・干支や年賀状の説明 ・年賀状を作る	スタッフ 5 名
3	2023 年 12 月 3 日(日) 13:30~15:00	1.5	川北町文化センター	10	防災について学ぶ	・アイスブレイク ・多文化防災ワークショップ“NICE!”という教材で防災について学ぶ	スタッフ 5 名
4	2024 年 1 月 14 日(日) 10:00~11:30	1.5	山本書道教室	3	習字を体験し、漢字を学ぼう	・自己紹介 ・習字(筆の使い方等)を学ぶ ・好きな漢字を練習	書道の先生 1 名 スタッフ 3 名
5	2024 年 2 月 24 日(土) 14:00~15:00	1	川北町文化センター	4	日本語で会話を楽しもう	・アイスブレイク ・「つなひろ」で 2 シーンの会話を練習 ・内 1 シーンの会話を自分に置き換え、内容をアレンジし練習	サポーター1 名 スタッフ 5 名

【主な活動】



新米でおにぎりをつくろう



年賀状をつくってみよう



日本語で会話を楽しもう

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	参加者が確保できず、開催できない教室が 2 回あった。第 6 回・第 7 回の教室からリピーターを確保できたが、まだまだ安定的な参加者の確保が必要である。企業への参加者募集は引き続き実施するが、参加者自身にも情報を拡散してもらい、参加者の確保に努める。
--------------------	--

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
多文化共生に関する講演	令和5年12月3日 15:30～16:30（1時間）	菊池アドバイザーに「多文化共生時代のまちづくり～地域日本語教育に求められる役割～」という題目で講演を行っていただいた。対象は、町内外の外国人支援に関わることがある方や防災に興味がある方、地域づくりに関心がある方などとした。近隣市町や町内から20名の方が参加し、多文化共生や日本語教室の必要性について理解促進の効果や「なでしこ日本語ひろば」の宣伝効果もあったと考えられる。
やさしい日本語講座	令和6年2月24日 10:00～12:00（2時間）	コーディネーターやスタッフ等の育成を目的に実施した。町内や近隣市町で興味がある方も対象とした。全員で8名が参加し、やさしい日本語の理解や「なでしこ日本語ひろば」の宣伝効果があったと考えられる。

【主な活動】



多文化共生に関する講演



やさしい日本語講座

5. 今年度事業全体について

進捗状況	今年度は教室の継続開催を目標としていた。計画通り7回の教室開催準備をし、内5回開催することができた。参加者が確保できず、2回は開催できなかった。また、コーディネーター会議やアドバイザー会議は概ね予定通り開催できた。加えて、アドバイザーによる講演ややさしい日本語講座も開催することができ、十分ではないが、教室関係者の育成も実施できた。
事業推進にあたり問題点と対応策	令和5年度は日本語教室の開催や安定運営に注力し、組織を拡大する取り組みは次のステップとしたため、サポーターの確保や育成が今後の課題である。日本語教室の町民への活動周知を強化し、サポーターに関心のある住民を増やす。町広報や町フェイスブックを用いてサポーターを募集する。サポーターや運営側の人材育成については、県国際交流協会などに相談し、講習会の実施などを検討する。
成果	打合せ、教室開催、反省会を繰り返すことで、教室の安定的な開催の流れをつかむことができた。また、時間や曜日を試行的にばらつかせたことで、開催日時が定まってきた。教室を継続開催することで、アドバイザーやコーディネーターと密な関係を築くことができ、必要経費の全体像も把握できた。参加人数の平均値では、町内外外国人の5.95%と、参加率は高く、参加者の満足度も高い。
地域の関係者との連携による効果	「事業推進にあたり問題点と対応策」にも記載した通り、サポーターの確保は課題であり、町民と外国人のつながりを作れるように努める。
コーディネーターの主な活動	① 教室の案内チラシ作成、多言語化 ② 教室活動内容の立案 ③ 教室で使用する資料作成 ④ 教室の会場準備 ⑤ 教室の反省会

アドバイザーの 主な助言	① 日本語教室開催及び運営のための助言 ② 人材育成のための助言
今後の課題	・参加者のニーズを教室に反映させたいが、リピーターが確保できない。第6回、第7回教室でリピートがあったので、来年度も継続してリピーターとなってもらえるような教室を開催できるように努める。 ・学習対象者が技能実習生のみとなっている。永住者や定住者は川北町に定住しているため、教室に参加してもらえれば中心的な存在となることが期待できる。そのため人数は少ないが、永住者や定住者の参加者も確保できるよう努める。 ・今年度は教室の継続開催に注力し、サポーターの募集に注力できなかった。来年度はサポーターの募集を積極的に実施する。 ・既に日本語教室を運営している近隣市町と協力し、参加者を確保する方法や日本語指導者など足りない人材確保についても検討する。
今後の予定	(1)今後の日本語教育事業の展開について ①日本語教室の展開 同様に実施していく。 ②日本語教室の実施主体と行政の関与について 行政が主体となって実施していく。 ③財源の確保について 来年度の予算は要求済み。 (2) 今後の予定（取組等） 継続的な教室の開催、サポーターの確保、中心となる学習者の発掘、コーディネーター・サポーターなどの人材育成、補助金の申請

本件担当： 川北町教育委員会 社会教育課